



平成29年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年5月15日

上場会社名 株式会社ピクセラ 上場取引所 東
 コード番号 6731 URL http://www.pixela.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)藤岡 浩
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)池本 敬太 (TEL)06(6633)3500
 四半期報告書提出予定日 平成29年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年9月期第2四半期の連結業績(平成28年10月1日~平成29年3月31日)

31(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月期第2四半期	1,216	20.1	42	—	30	—	14	—
28年9月期第2四半期	1,012	△46.6	△193	—	△235	—	△238	—

(注) 包括利益 29年9月期第2四半期 17百万円(—%) 28年9月期第2四半期 △226百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年9月期第2四半期	0.51	0.50
28年9月期第2四半期	△11.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年9月期第2四半期	1,462	863	58.1
28年9月期	1,240	686	54.1

(参考) 自己資本 29年9月期第2四半期 850百万円 28年9月期 670百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年9月期	—	0.00	—	—	—
29年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年9月期の連結業績予想(平成28年10月1日~平成29年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,633	143.7	57	—	11	—	5	—	0.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年9月期2Q	30,278,981株	28年9月期	28,678,981株
29年9月期2Q	118,712株	28年9月期	118,712株
29年9月期2Q	29,050,928株	28年9月期2Q	20,614,914株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
4. その他	14
継続企業の前提に関する重要事象等	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の売上高は12億16百万円（前年同期比20.15%増）、営業利益42百万円（前年同期は営業損失193百万円）、経常利益30百万円（前年同期は経常損失235百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は14百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失238百万円）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

[AV関連事業]

主力の回線事業者向けワイヤレステレビチューナーにおきましては、次機種への移行により受注、売上ともに減少いたしました。新たにIoT事業との融合である4K映像対応のセットトップボックス（STB）の開発を受注し、売上を計上いたしました。次世代 STB として家庭内の様々な IoT機器をインターネット環境に接続するためのゲートウェイ機能や、スマートフォンや専用端末でのみ視聴できる VR 映像を家庭用のテレビでも視聴できるようにする機能、さらにAI を使った視聴番組のお勧め機能等、既存ビジネスと新規ビジネスを融合させた製品の開発を進めております。

パソコン向けテレビキャプチャーは、競合メーカーの事業撤退などにより当社のシェアが拡大し、増収となりました。

リテール製品に関しましては、既存商品の売上の増加とモバイル向けテレビチューナー関連の新製品の発売により、増収となりました。

また、オンラインショップ4店舗におきましても、モバイル向けテレビチューナー関連の新製品の販売が好調に推移し、増収となりました。

ビデオカメラ向けの画像編集アプリケーションに関しましては、引き続きビデオカメラ市場縮小の影響を受けてロイヤルティ及び開発案件が減少したこともあり、大きく減少となりました。

新規事業の柱のひとつであるIoT関連事業では、前連結会計年度に発売したSIMフリー対応のLTE対応USB Dongle が、市販のUSBアダプターを用いてコンセントにつなぐだけでどこでもWi-Fi通信を楽しめるという手軽さや対応OSの柔軟さが評価され、引き続き売上を伸ばしました。また、法人向けサービスへの導入も増加し、収益改善に貢献しております。

また、「Conteホームサービス」は、一般家庭で離れた場所から家の監視や家族の見守りを手軽に導入できるサービスとして展開し、新たなセンサーデバイスを追加するなどを行った結果、市場認知の向上による住宅関連メーカーや民泊事業者などからの引き合い、問合せが増加しており、商談やサンプル出荷も増加しております。

これらの結果、売上高は12億3百万円（前年同期比31.6%増）、セグメント利益（営業利益）は2億92百万円（前年同期はセグメント利益44百万円）となりました。

[光触媒関連事業]

光触媒関連事業では、ブルネイ政府との省エネ実証実験および共同研究が終了し、清算に伴う経費が増加したため減収となりました。

この結果、売上高は12百万円（前年同期比87.0%減）、セグメント損失（営業損失）は1百万円（前年同期はセグメント損失2百万円）となりました。

(注) 各セグメントのセグメント利益又は損失（営業利益又は損失）は、「セグメント情報」に記載のとおり、各セグメントに配分していない全社費用2億49百万円（前年同期比5.7%増）を配分する前の金額であります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2億22百万円増加し、14億62百万円となりました。

これは主に、現金及び預金が2億37百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が4億44百万円、投資有価証券が33百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ45百万円増加し、5億99百万円となりました。

これは主に、1年内償還予定の新株予約権付社債が40百万円減少したものの、未払費用が26百万円、未払消費税等が35百万円、前受金が23百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ1億77百万円増加し、8億63百万円となりました。これは新株予約権の行使による新株発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ81百万円増加したこと及び、親会社株主に帰属する四半期純利益を14百万円計上したことなどによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ2億37百万円減少し、1億47百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果使用した資金は、2億72百万円(前年同期は1億99百万円の支出)となりました。これは主に、売上債権の増加4億66百万円、棚卸資産の減少58百万円があったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、69百万円(前年同期は2百万円の獲得)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が18百万円、無形固定資産の取得による支出が18百万円、投資有価証券の取得による支出が30百万円あったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果獲得した資金は、1億3百万円(前年同期は46百万円の獲得)となりました。これは転換社債型新株予約権付社債の償還による支出が40百万円、長期借入金の返済による支出が16百万円があった一方で、新株予約権の行使に伴う株式の発行による収入が1億60百万円あったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年11月14日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	384,799	147,720
受取手形及び売掛金	368,700	812,841
電子記録債権	79,003	100,873
商品及び製品	94,661	54,520
仕掛品	28,188	5,964
原材料及び貯蔵品	94,448	88,896
その他	42,663	40,027
流動資産合計	1,092,465	1,250,844
固定資産		
有形固定資産	9,384	30,460
無形固定資産		
ソフトウェア	9,226	10,172
ソフトウェア仮勘定	18,360	33,000
電話加入権	817	-
無形固定資産合計	28,403	43,172
投資その他の資産		
投資有価証券	5,642	39,277
営業保証金	4,324	5,824
保険積立金	4,225	4,297
敷金	69,022	69,022
その他	21,803	21,123
貸倒引当金	△15,806	△15,806
投資その他の資産合計	89,210	123,737
固定資産合計	126,998	197,370
繰延資産		
社債発行費	418	-
株式交付費	13,644	9,804
新株予約権発行費	6,550	4,764
繰延資産合計	20,613	14,568
資産合計	1,240,077	1,462,783

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	263,929	262,632
短期借入金	50,000	50,000
役員からの短期借入金	10,546	11,701
1年内返済予定の長期借入金	16,180	-
1年内償還予定の新株予約権付社債	40,816	-
未払金	39,564	42,738
未払費用	53,484	80,045
未払法人税等	11,514	24,835
未払消費税等	-	35,709
前受金	34,851	58,517
その他	4,822	4,921
流動負債合計	525,711	571,101
固定負債		
繰延税金負債	1,070	1,155
資産除去債務	26,926	26,935
固定負債合計	27,996	28,091
負債合計	553,707	599,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,049,944	2,131,160
資本剰余金	948,653	1,029,869
利益剰余金	△2,203,604	△2,188,903
自己株式	△125,038	△125,038
株主資本合計	669,955	847,088
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	914	3,433
その他の包括利益累計額合計	914	3,433
新株予約権	15,500	13,068
純資産合計	686,369	863,590
負債純資産合計	1,240,077	1,462,783

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)
売上高	1,012,110	1,216,055
売上原価	784,584	778,628
売上総利益	227,526	437,426
販売費及び一般管理費	421,267	394,945
営業利益又は営業損失(△)	△193,741	42,480
営業外収益		
受取利息	17	8
受取配当金	28	34
違約金収入	-	6,000
広告料収入	-	1,951
雑収入	195	971
営業外収益合計	241	8,966
営業外費用		
支払利息	1,054	381
為替差損	2,744	3,047
支払手数料	14,326	10,244
投資事業組合運用損	11,231	-
貸倒引当金繰入額	7,705	-
その他	5,021	7,583
営業外費用合計	42,084	21,257
経常利益又は経常損失(△)	△235,584	30,189
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△235,584	30,189
法人税、住民税及び事業税	2,650	16,156
法人税等調整額	△52	△667
法人税等合計	2,598	15,488
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△238,183	14,701
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△238,183	14,701

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△238,183	14,701
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,220	2,519
その他の包括利益合計	11,220	2,519
四半期包括利益	△226,963	17,220
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△226,963	17,220
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△235,584	30,189
減価償却費	13,148	4,981
新株予約権発行費償却	-	1,786
株式交付費償却	3,840	3,840
社債発行費償却	975	418
たな卸資産評価損	6,103	9,089
貸倒引当金の増減額(△は減少)	7,705	-
受取利息及び受取配当金	△46	△42
支払利息及び社債利息	1,054	381
為替差損益(△は益)	660	△471
売上債権の増減額(△は増加)	12,742	△466,011
たな卸資産の増減額(△は増加)	32,478	58,828
仕入債務の増減額(△は減少)	△7,725	△5,420
未払金の増減額(△は減少)	△17,182	2,563
未払費用の増減額(△は減少)	△7,621	26,560
前受金の増減額(△は減少)	13,622	23,665
その他	△9,659	39,007
小計	△185,488	△270,633
利息及び配当金の受取額	40	36
利息の支払額	△890	△213
法人税等の支払額	△13,125	△1,897
営業活動によるキャッシュ・フロー	△199,463	△272,707
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,392	△18,118
無形固定資産の取得による支出	-	△18,960
投資有価証券の取得による支出	-	△30,362
投資有価証券の売却による収入	5,640	-
敷金及び保証金の差入による支出	-	△1,500
その他	△60	△60
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,187	△69,000
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△38,986	△16,180
新株予約権の行使による株式の発行による収入	200,000	160,000
転換社債型新株予約権付社債の償還による支出	△114,285	△40,816
財務活動によるキャッシュ・フロー	46,728	103,003
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,419	1,626
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△151,967	△237,078
現金及び現金同等物の期首残高	248,419	384,799
現金及び現金同等物の四半期末残高	96,452	147,720

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において、5期連続の営業損失を計上しており、これまで新規事業の早期収益化、固定費の削減などの施策を実施してまいりました。これにより当第2四半期連結累計期間においては42,480千円の営業利益を計上し、黒字化を果たしましたが、継続的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを確保する体質への転換には時間を要することが見込まれるため、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を解消するため、以下の施策を実施しております。

(1) 事業の方向性

当社グループでは、従来より新規事業としてIoT、自動多言語翻訳、AR/VRの3つの分野へ集中して投資を行い、開発が完了した一部製品の販路開拓に取り組んで参りましたが、既存事業の減収を補うには至っておりません。このような状況を踏まえ、当連結会計年度より、今後市場が拡大し、創業以来培ってきた当社の技術力が生かせる市場であるAI、4Kテレビ、防災市場をさらに新たなターゲットと定め、積極的に開発投資を行っていくことにより市場での地位をできる限り早く確保することを目指しております。またMVNO(仮想移動体通信事業者)事業を開始したことを皮切りに通信事業に参入し、さらなる安定した収益基盤を作ることを目指しております。

当社グループでは、製品開発の加速及び生産性の向上、新たな顧客に対する営業活動の強化及び他社との協業体制の構築により、これらの事業の早期の収益貢献を図って参ります。

(2) コスト削減の継続

従来より役員報酬の減額、人件費の削減への取り組みは継続的にを行い、経費の圧縮に務めておりますが、さらに当連結会計年度より、開発コストの管理を効率的に行えるシステムを本格稼働させ、さらなるコスト削減に努めて参ります。

なお、当第2四半期連結累計期間における人件費の削減額は、前年同期比で3百万円となっております。

(3) 開発資金の確保

当第2四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により1億60百万円を調達し、新規事業への積極投資に充当しております。当第2四半期連結累計期間末において未行使の新株予約権がすべて行使された場合は、さらに18億40百万円の資金調達が可能であり、引き続きこれら資金を積極的に活用し、新規事業の早期の収益化と財務状況の改善を目指してまいります。

以上の施策を実施することにより、新たな収益基盤の確保と経営の安定化を図り、当該状況の解消に努めてまいります。

しかしながら、これらの施策は実施途上であり、また、新株予約権の行使状況及び新規事業の今後の進捗状況や営業活動等により収益が計画どおり改善しない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

当第2四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により、資本金が101,070千円及び資本準備金が101,070千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,696,199千円、資本剰余金が594,908千円となっております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

当第2四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により、資本金が81,216千円及び資本準備金が81,216千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,131,160千円、資本剰余金が1,029,869千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	AV 関連事業	光触媒 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	914,193	97,916	1,012,110	—	1,012,110
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	914,193	97,916	1,012,110	—	1,012,110
セグメント利益又は損失(△)	44,755	△2,519	42,236	—	42,236

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	42,236
「その他」の区分の利益	—
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△235,978
棚卸資産の調整額	—
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△193,741

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎研究費等であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	AV 関連事業	光触媒 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,203,336	12,718	1,216,055	—	1,216,055
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,203,336	12,718	1,216,055	—	1,216,055
セグメント利益又は損失(△)	292,987	△1,000	291,987	—	291,987

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	291,987
「その他」の区分の利益	—
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△249,506
棚卸資産の調整額	—
四半期連結損益計算書の営業利益	42,480

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎研究費等であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

2. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、5期連続の営業損失を計上しており、これまで新規事業の早期収益化、固定費の削減などの施策を実施してまいりました。これにより当第2四半期連結累計期間においては42,480千円の営業利益を計上し、黒字化を果たしましたが、継続的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを確保する体質への転換には時間を要することが見込まれるため、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を解消するため、以下の施策を実施しております。

(1) 事業の方向性

当社グループでは、従来より新規事業としてIoT、自動多言語翻訳、AR/VRの3つの分野へ集中して投資を行い、開発が完了した一部製品の販路開拓に取り組んで参りましたが、既存事業の減収を補うには至っておりません。このような状況を踏まえ、当連結会計年度より、今後市場が拡大し、創業以来培ってきた当社の技術力が生かせる市場であるAI、4Kテレビ、防災市場をさらに新たなターゲットと定め、積極的に開発投資を行っていくことにより市場での地位をできる限り早く確保することを目指しております。またMVNO(仮想移動体通信事業者)事業を開始したことを皮切りに通信事業に参入し、さらなる安定した収益基盤を作ることを目指しております。

当社グループでは、製品開発の加速及び生産性の向上、新たな顧客に対する営業活動の強化及び他社との協業体制の構築により、これらの事業の早期の収益貢献を図って参ります。

(2) コスト削減の継続

従来より役員報酬の減額、人件費の削減への取り組みは継続的に行い、経費の圧縮に務めておりますが、さらに当連結会計年度より、開発コストの管理を効率的に行えるシステムを本格稼働させ、さらなるコスト削減に努めて参ります。

なお、当第2四半期連結累計期間における人件費の削減額は、前年同期比で3百万円となっております。

(3) 開発資金の確保

当第2四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により1億60百万円を調達し、新規事業への積極投資に充当しております。当第2四半期連結累計期間末において未行使の新株予約権がすべて行使された場合は、さらに18億40百万円の資金調達が可能であり、引き続きこれら資金を積極的に活用し、新規事業の早期の収益化と財務状況の改善を目指してまいります。